

# 三原市立第二中学校だより

校訓「響き合う二中っ子」

第1号

キャッチコピー「響き合っていますか、私たち」 平成23年4月8日

## 第65回入学式での式辞(抜粋)

### 一 校訓の「響き合う二中っ子」を本気で究めるということ 一

130名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。皆さんの真剣な眼差しから、中学校生活への熱き思いが伝わってきます。

さて、東日本大震災によって、東北地方を中心とする東日本は甚大な被害に遭いました。日本は今、国家的な危機にあります。大津波等による死者、行方不明者は合わせて約3万人という未曾有の大災害となりました。被害に遭われた東日本の皆様に心からお見舞い申し上げますとともに、亡くなられた皆様に心から哀悼の意を表します。

このことにかかわって、第83回選抜高校野球大会で岡山の創志学園のキャプテンである野山慎介くんが立派な選手宣誓を行いました。その全文は次のとおりです。

「私たちは16年前、阪神淡路大震災の年に生まれました。今、東日本大震災で多くの尊い命が奪われ、私たちの心は悲しみでいっぱいです。被災地では全ての方々が一丸となり、仲間とともに頑張っておられます。人は仲間を支えられることで、大きな困難を乗り越えることができると信じています。私たちに今できること。それはこの大会を精いっぱい元気を出して戦うことです。頑張ろう、日本。生かされている命に感謝し全身全霊で正々堂々とプレーすることを誓います。」

野山慎介くんのメッセージのキーワードは「仲間」と「感謝」です。「仲間と支え合い、生かされている命」に感謝しながら正々堂々とプレーすることを誓ったのです。

私は、4月6日の始業式において、皆さんの先輩となる新2年生・新3年生に対して、次のことを伝えました。新入生の皆さんにも同様のことを願っています。

それは、校訓の「響き合う二中っ子」を本気で究めるということです。

校門の真正面に位置する校訓の石碑。「響き合う二中っ子」と刻まれた立派な石碑は、まさに二中のシンボルです。創立40周年を記念して設立された石碑が、以来、25年間、私たちを見守ってくれています。

今から25年前といえば、全国的に中学校が荒れていた時代です。その時代に現在の校訓が作られたことに意味があります。「荒れ」を克服するエネルギーとするために、「響き合う二中っ子」の校訓が石碑に刻まれたのだと、私は理解しています。

第二中学校は、三原市においても、広島県においても、輝いていなければならない存在です。それが二中の存在感であり、使命です。

本校の校訓は、「感性」「表現(性)」「耐性」をもって輝くことが求められています。その具体は、一つには、「お互いが人格を尊重し合い、心で見つめ合い、受け止め合うこと(すなわ

ち「感性」です)。二つには、「夢と志をもち、自分の考えをより豊かに、正確に表現すること(すなわち「表現性」です)。三つには、「一所懸命に努力することによって、辛いことから逃げ出さないこと(すなわち「耐性—忍耐」です)。

校訓の精神は、「結束すること」を求めています。一人の力は微力ですが、一人ひとりが力を合わせれば、大きな力となります。結束することによって感じる事ができる大きな力こそが、「響き合う力」なのです。本校のミュージカル、体育大会、文化祭、部活動、職場体験学習、宿泊合宿、修学旅行、進路実現学習、生徒会活動などは、いずれも「響き合う力」を感得できる貴重な教育活動です。中でも、1年生全員によって創作するミュージカル「響き合う『やっさ』の青春」は、あなたたちに「誇り」と「絆」を膨らませる感動体験となることでしょう。今年度もポポロ(三原市芸術文化センター)での上演をめざします。

本校の学校教育目標は「知・徳・体のバランスのとれた人間力の向上」です。知・徳・体のバランスが重要なのです。いかに知識・技能が優れていても、豊かな心が育っていなければ、その知識や技能を人々のために生かすことはできません。それどころかその知識や技能は悪用され、害になる危険性があります。また、健康を保つことができなければ、いかに優れた知識・技能や豊かな心を持ち備えていたとしても、そのことを社会に生かすことが難しくなります。だからこそ、部活動を通して心身を鍛えることが求められます。すなわち、知・徳・体のバランスのよさが、真に人間力を向上させ、社会に貢献できる人へと成長させるのです。

中国の三国時代(魏・呉・蜀の三国が鼎立した時代)に活躍した諸葛孔明は、「学ぶことで才能は開花する。(しかし)志がなければ学問の完成はない。」と言っています。

新入生の皆さんは、本日の入学式を迎えるに当たって、どんな「志」をもってこの場に臨みましたか。是非、早いうちに、中学校の3年間を見通した、将来への「夢」と「志」を抱いて、大いに努力して欲しいと思っています。そのためには、「学ぶ」ことに一所懸命になることです。先生に学ぶ。仲間に学ぶ。先人に学ぶ。家族の人に学ぶ。体験に学ぶ。社会に学ぶ。そして大自然に学ぶ。学ぶべきことは多々あります。

## 人事異動によって13名の教員が二中に就任

養護教諭	吉田 裕子	養護	三原市立第三中学校から	保健主事, 3年の学年担任
教諭	加島美紀夫	社会	三原市立宮浦中学校から	生徒指導主事, 3年の学年担任, テニス部女子
教諭	中二 和美	国語	三原市立本郷中学校から	進路指導主事, 3年の学級担任, 3年の国語, バスケット部男子
教諭	竹本 真弓	社会	三次市立三次中学校から	2年の学年担任, 1・2年の社会, バレー部
教諭	森西 晃弘	英語	三原市立第三中学校から	1年の学級担任, 1年の英語, 野球部
教諭	福澤 彦明	数学	三原市立第三中学校から	2年の学級担任, 2,3年の数学, サッカー一部
教諭	松本 浩明	社会	世羅町立甲山中学校から	3年の学級担任, 1,3年の社会, 陸上部
教諭	児玉 隆弘	保体	三原市立久井中学校から	1年の学級担任, 全学年の保体, 陸上部
教諭	石川 浩司	理科	新規採用	1年の学年担任, 1・3年の理科, 科学部
講師	内海 結示	数学	三原市立第三中学校から	1年数学(はつらつプランによる少人数指導)
講師	時乗 咲月	英語	三原市立本郷中学校から	1・3年英語(習熟度別指導)
講師	近廣 美香	数学	三原市立第五中学校から	2年の数学(習熟度別指導)
講師	堂元 千恵	数学	三原市立宮浦中学校から	3年の数学(習熟度別指導)